◀▼ストロイエ（中心街）で日本人有志による街頭募金

LETTER FROM COPENHAGEN

コペンハーゲン通信 1 PART Ⅲ

デンマーク王国 DATA

人口551万人（≒北海道）、面積4.3万平方キロ（≒九州）、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より、当会事務局員が2年の任期で在デンマーク日本大使館に出向していますが、今年1月に樋口麻紀子より住田智子にバトンタッチしました。そこで、今月号より新たに「コペンハーゲン通信PartⅢ」として、デンマークからの現地報告を引き続きお届けします。

住田 智子
在デンマーク日本大使館二等書記官
（経済同友会事務局より出向中）

デンマークから東日本大震災を見て１カ月

はじめに、東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

デンマークに来て3カ月が経ちました。日本から離れる時には、何かあってもすぐには飛んで帰れないと覚悟をしたつもりでした。しかし、こちらに来て2カ月足らずのうちに日本で大地震が起こり、その覚悟を試される時が来たのです。想像を絶する映像は、こちらでも流れています。

津波が町を襲い、多くの方々が被災され、そして市町村が消えてしまう。遠く離れた海外から、そんな悲惨な映像を見ることがこんなにつらいものだとは思ってもみませんでした。いまだ原発問題は解決に至らず、余震も多い状態が続いていると聞きます。

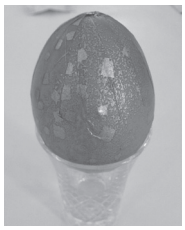
何ができるだろう？ 何かしたい！ という思いだけが先走り、焦る数日を過ごしました。そして、震災後5日目にデンマーク在留の日本人有志で街頭募金をしようという話が持ち上がり、早速デンマーク赤十字、コペンハーゲン市等に相談したのです。通常2週間かかる手続きを素早く済ませてくれ、3月19日（土）にはコペンハーゲンの中心街であるストロイエのロイヤルコペンハーゲン前で街頭募金を行うことができました。街頭の人たちの日本の被災者への関心は高く、多くのデンマーク人や観光客が募金をしてくださいました。うれしかったのは、募金するだけでなく、多くの方々が日本語、英語、母国語で祈りの言葉や励ましの言葉を下さったことです。

この活動を皮切りに、さまざまな日本を救うための活動が行われるようになりました。日本関係の勉強をしている学生によるキャンドル・サービス、デンマーク在住の日本人音楽家によるチャリティー・コンサート、東京・青山にも進出している、デンマーク人フラワー・アーティストのニコライ・バーグマンによるチャリティー・エキシビション、日本に赴任経験のある外交官夫人によるチャリティー・カルチャースクールなどです。

その他、デンマーク政府は、被災者のために専門家を日本に派遣したり、毛布を送ったりしています。また、大手海運企業のマースクは物資の運搬や船舶の貸与等を申し出てくれるなど、さまざまな面でのサポートをしています。

デンマーク赤十字のサイトでもトヨタ・スズキ等の日本企業やマースク、ルンベック、ダニッシュクラウン等のデンマーク企業がオンラインでの募金活動を続けていて、多くの募金が集まっています。メルビン駐日デンマーク大使は、3月30日に宮城県の被災地（東松島市）を訪れ、集まった募金とおもちゃのレゴを寄付されたという話も聞き、デンマークと日本の絆の強さを感じます。さまざまな国の方々が日本のためにと頑張ってくれているのを見るにつけ、日本人として感謝するとともに、この皆さまの願いを日本の被災者に届けなくてはならないと強く感じます。

◀街中のレストランにてチャリティー・コンサート



▼外交官夫人が和紙を使ったイースターエッグのデコレーションを教える、チャリティー・カルチャースクール